

# ころも 豊高図書館

みち 第213号

2016.10.28

霜  
降  
う

## 秋の夜長に読書を

朝晩の冷え込みが厳しくなり、秋が深まってきました。3定・模試と一息つく間もない日々が続いています。

秋は「読書の秋」「スポーツの秋」「食欲の秋」などと言われるほど気候や自然に恵まれている季節です。

目の前のことにじっくり取り組んだり、息抜きに何か始めるにはぴったりではないのびしょうか。図書室には様々なジャンルの本が揃っています。調べもの息抜きにぜひ。

## オススメの本

### ①手と金の木 (宮下 奈都)

ピアノの調律に魅せられ、調律師として人として成長する物語。勉強の合間に少しづつ読むとどのかなやったりとした気分になります。(3-4 谷口 文)

### ②バグモノの子 (細田 守)

人間の世界とは別のバグモノの世界へ迷い込んだ、ひびきの少年が、バグモノ熊徹の弟子となり、九太という名前を授けられる。修行と冒険を重ねていくうちに、二人の絆は深まっていく。やがて二人は本当の親子のようになり...

### ③命は誰のものか (香川 知晶) (一年図書委員)

あなたはどうする? 脳死・臓器移植...

### ④金曜のバカ (越谷 オサム)

女子高校生とスティーガー、二人のバカが作り出す、予想のなげめ上をいく展開に引き込まれること間違いなし! のほろこりキョートな短編集です。

話のテンポが良く、とても読みやすいので、読者が苦手という方もぜひ読んでみてください。(一年図書委員)

### ⑤私という運命について (白石 一文)

一人の女性と40歳までの揺れ。10年を描く。

一年図書委員  
福田 里和 古家 理恵子  
白岩 美咲 甲部 寛 愛倫  
垣尾 果歩

## 第82回読書感想文但馬高校コンクール

特選 カラフルな世界で (カラフル/森 絵都著)

栗原 菜緒さん (1-10県コンクール出品)

栗原さんの感想文は裏面に載っています。

入選 『コーヒーが冷めないうちに』を讀んで (川口俊和著)

小林 美緒さん

『呼人』を讀んで (野口 尚著)

安東 洋佑さん (2-5H)

『青い鳥』を讀んで (重松 清著)

織田 佑香さん (1-2H)

## 日本の先駆者たち

夢のようだが、大隅 良典氏のオートマタの研究が讃えられ、日本人3年連続のノーベル賞受賞になったのである。決してあたりまえのことではない。まさに日本の力を改めて世界に見せつけた瞬間でもあろう。

さて、こうなるに来年をいかなるものが楽しみだが、我々豊高生は時代の傍観者であるべきではない。さあ行こう。私たちこそがこれらの未来を切り開く先駆者になるのだ! (2年5H 吉田 史彦 文)

秋の七草  
① みなえし (女郎花) → 美人  
② つき (薄) → 花 → 活カ  
③ きょう (桔梗) → 言 → 変わらぬ愛  
④ しろこ (撫子) → 葉 → 貞節  
⑤ じばかま (藤袴) → 葉 → 思いやり  
⑥ づき (葛) → 根気・努力  
⑦ ぎ (萩) → 根気  
⑧ ぎ (萩) → 根気

⑧オスギナフハと覚えましょう。

裏面もあります

キンモクセイ  
金木犀

Fragrant olive

10月のサレ  
花言葉は「謙虚」「気高い人」  
香りのすばらしさに対して目立たない。小な花をつけることが出来ていて、秋の代表的花です。

## 図書貸出数ランキング(41~50)

- 1位 夜は短し歩けよ乙女 (森見登美彦著)
- 2位 君の隣にいたい (佐野 玲著)
- 3位 作家彼女 九条華のハズレがオチに落ちるまで (ペンパル著)
- 4位 いなくなれ群青 (河野 裕著)
- 5位 限界集落株式会社 (黒野 伸一著)
- 6位 読解だらけの遺伝子組換え作物 (小島 正義編)
- 7位 世界から猫が消えたなら (川村 元氣著)
- 8位 羊と鋼の森 (宮下 奈都著)

## 校内個人読書数ランキング(学期)

- |    |     |            |     |
|----|-----|------------|-----|
| 1位 | 1-3 | 福井 颯太さん    | 51冊 |
| 2位 | 3-3 | 大木 本 虎之介さん | 24冊 |
| 3位 | 3-2 | 宮村 真央さん    | 22冊 |
| 4位 | 1-5 | 神原 寧生さん    | 21冊 |
| 5位 | 2-1 | 森垣 琴音さん    | 19冊 |

## 読書週間 せな一冊!

※1924年から行われています。

## 苦い受験生

先を見据えて  
やるしかない!

受験生は模試結果を見る毎に、結果の都度、一言一語一憂する。その先をどう見据える。信念に基づいて勉強に打ち込んで下さいます。今回良い結果であったとしても同じです。精神的に辛いのはみんな同じです。自分との闘いなのです。

あせす  
あわてず  
あきらめず

弱音を吐かないで、今を乗り切ってください。たまにはストレス解消してください!

図書館も朝開館しています。利用して下さい。

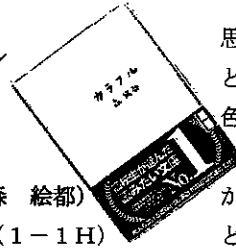
## 第62回読書感想文但馬高校支部コンクール

### 特選

題 「カラフルな世界で」

カラフル (森 絵都)

栗原 菜緒 (1-1H)



「ぼくはぼくを殺したんだ」

この言葉にたどりつくのに、「僕」はどれだけ遠回りをしたんだろう。自殺をした中学三年生の「小林真」の肉体を借りて、主人公「僕」は死ぬ前に自分の犯した大きな過ちを探す旅に出る。この本を通して、私は「生」と「死」について深く考えさせられた。

私は自殺という言葉が嫌いだ。自殺は殺人だ。いじめられて自殺したとニュースで耳にするたびにひどく悲しい気持ちになる。いじめが犯罪であるのと同様に、自殺も犯罪だ。

言葉にするまでもなく、いじめをする人間の利己主義や他人の痛みに対する鈍感さは許せない。しかし、自分を殺していいはずがない。自ら死を選ぶ人に言いたい。「本当につらいんだよね。悲しいんだよね。でも、ちょっと待って」と。現状から抜け出すためには死を選ぶしかない追い詰められた苦しさは、本人にしか分からないかもしれない。しかし、自殺は自分を理解し、受け入れてくれる誰かに出会える可能性すらも奪ってしまう。生きていたら大きな喜びが待っているかもしれない。そして、あなたの死を家族や友達がどれほど悲しむか知っているの。それを分かっても、あなたは命を捨てることができるの。

真は、学校でいじめられて、唯一の心の拠り所だった家族の黒い部分を知ってしまい、自殺をしてしまった。覚悟を決めてというよりも、実に自然な心持ちで睡眠薬を飲み干して死んでしまったのだ。初恋の相手の援助交際や、明るく優しい母親の不倫。いじめられて不安定な時に、その衝撃に耐えられなかったのだろう。しかし、この時、真は知らなかった。母親の苦悩を、そして、初恋の少女の苦しみを。援助交際や不倫を肯定するつもりはない。ただ、真の知らない彼女たちの一面、普段真に見せる笑顔の裏側に、彼女たちが抱える心の痛みがあったことが重要なのだ。

「この世があまりにもカラフルだから、ぼくらはみんないつも迷っている。どれがほんとの色だかわからなくて。どれが自分のいろだかわからなくて。」本に出てくるこの言葉にあるように、人は、人によって表情を変える。私も、好きな人の前では良く映りたいと

思うし、人と出会って、その人のことをよく知るまでは、第一印象と付き合っていたのだと気づいたり、カラーのギャップに驚くことも少なくない。私自身も、「あなたの色は何色ですか」と訪ねられたら、答えることはできない。人は色んな色を持っているのだ。

人と人が生きていく中で、分からないところや気づけないところはたくさんある。だから、一面だけを見て他人を判断してはいけないと思う。人は人によって色を変える。人と出会い、思いを語り合ったり、力を合わせて何かに取り組み、達成することで、自分が変わっていくのが分かる。それは、友達の中にも起こっていることかもしれない。色んな色が混ざり合って、豊かな色が出来上がっていく。そんな風に作用しあっていることを想像すると、生きることが楽しくなる気がする。

真が目を開けたときには、「真」の肉体には「僕」が入っていた。その「僕」の視点から見る世界は、「真」の知っていた世界とは全く違うものだった。まるで万華鏡が模様を変えるように、角度を変えてみると、見えてくる世界も人の印象も変わってしまうのだと感じた。

真と僕とで違うのは身軽さである。やり直しの聞かない一度きりの人生で、人は失敗したくないものだ。真は、ある意味で様々なものに縛られていたように感じる。それに比べて、僕は本来の自分ではなく、他人の身体に入っていたからとても自由だった。一定の修行期間を終えると、真の体から抜け出せるという気楽さもあつたろう。だから、「真」という人間のそれまでのしがらみにとらわれることなく、客観的に物事を見ることができた。

そして、自分の思いに任せて、自由に思い切って行動したから、今まで分からなかった周りの人の気持ちを知ることが出来た。真の場合、自分が友達や家族と距離を置いて接していたから、周りも同じように距離を置いてきたのかもしれない。人と関わることを最初から拒んだり、あきらめるのではなく、少し勇気を出して、自分をさらけ出してみれば、相手もその想いを伝えてくれる。自分の関わり方や、行動を変えてみれば、周囲の人も、世界の見え方もがらっと変わる。そんな可能性に世界は満ちあふれている。

人間は生まれたその瞬間から、死ぬまでのカウントダウンが始まっているのだろう。人の命にはそれぞれリミットがある。その限られた時の中で、自分がどう生きるか。生きていく中で、たくさんの辛いこと、苦しいことを経験するだろう。しかし、人は一人ではない。家族や友達と何かを乗り越えられた時の喜びは大きく、辛いことを経験するほど人は強くなれる。だから、どんなに苦しくても、生きたいし、生きてほしいと願う。親がくれた一番大切な「命」を。